

# 21世紀をめざす近畿の2大プロジェクト



## 世界に開かれた 24時間空港

### ●関西国際空港

昭和57年度の大阪国際空港の離着陸回数は、12.8万回。旅客数は1,620万人。また取扱い貨物量も年々増加の一途をたどっており、今や24時間開かれた空港は世界の要望です。その為、周辺地域に公害を及ぼさずに時間制限や便数規制なしに航空機を離発着させることは、長年の夢でした。運輸省の調査開始(43年)以来、15年に及ぶ調査、地元協議を経て、67年第一期開港を目指して着工に踏み出しました。この空港建設と同時に道路・鉄道等のアクセス交通体系の整備及び地域整備も進められる予定で、近畿圏の大きな発展が期待されます。私たち日本土木工業協会関西支部会員各社も最新の技術の粋を駆使し、空港建設に取り組んでまいります。

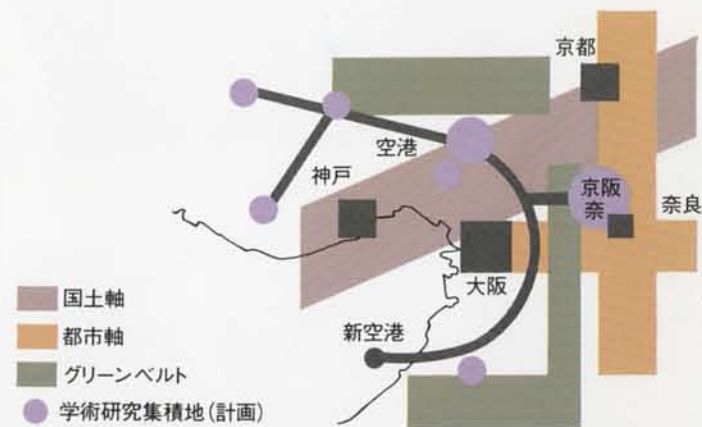


(写真提供・大阪府企業局空港対策部)

## 近畿圏の創生と わが国文化の創造を担う都市

### ●関西文化学術研究都市

関西文化学術研究都市は、近畿圏における文化・学術・研究振興を基調とする都市づくりの大規模プロジェクトです。大都市圏問題の顕在化や、さまざまな“関西復権”への提唱などを背景として浮かびあがってきた構想です。昭和58年3月、産・官・学一体となって関西文化学術研究都市建設推進協議会を結成。大阪・京都の都心から20~30km圏内に位置する広大な京阪奈丘陵に、文化・学術・研究振興、地域整備、産業振興、そして新しい都市づくり、という4つの目的を同時に達成することを目指しています。私たち日本土木工業協会関西支部会員各社は総力を上げて、21世紀のモデル都市づくりに貢献してまいります。



(資料・国土庁)